

平成 28 年度 第 1 回東区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成28年8月25日(木)午後1時30分から午後3時00分まで
会 場	東区プラザ ホール
出席者	東区自治協議会委員 出席27名 教育長 教育委員:織田教育委員, 上田教育委員 事務局:教育総務課長, 地域教育推進課長, 学校支援課課長補佐 中地区公民館長, 東区教育支援センター所長 傍聴者1人
議 事	<p>1 開会</p> <p>2 東区担当教育委員挨拶(織田教育委員, 上田教育委員)</p> <p>3 平成 28 年度教育委員会の施策について(教育長)</p> <p>4 意見交換(司会 東区教育支援センター所長)</p> <p>主な視点</p> <p>① より良い地域づくりのために, 地域の皆さんと公民館などの社会教育施設や学校とが協働してできることは</p> <p>② 地域で子どもを育てるために, 地域と学校の関わりから見えてきた現状と今後必要と考える取り組みは</p>
自治協委員	<p>人口減少が深刻な問題となっている。県外へ出た学生が戻って来てくればありがたい状況である。そのためには小中学生の頃から, 地域となじんだり, 地域の伝統を受け継いだりということを大切にしたい。そのひとつとして, 地域の祭りが考えられる。</p> <p>教育委員会として祭りの実施状況や小中学生の参加者数など把握しているか。また, 何か支援をしているか。</p>
教育委員会事務局	<p>小中学校では, 教育の中で地域との連携が大事になっている。地域と学校パートナーシップ事業はその連携推進が目的であり, ボランティアや地域の行事で活躍する大人がモデルとなって, 地域に愛着をもつということが進んでいる。</p> <p>伝統芸能を学ぶことを学習課題として取り上げ, 地域の祭りへの参加や踊りの習得などを行っている学校もあるが, 各祭りの実施内容や参加者数などをすべて把握してはいない。また, 特別な支援は行っていない。</p>
自治協委員	<p>今年度から, ふれあいスクールとしての地域の祭りへの参加をやめた学校があったのだが, それは教育委員会の方針か。ふれあいスクール事業と地元の祭りとは, 無関係でいいのか。</p>
教育委員会事務局	<p>教育委員会の方針ではない。学校として, 生徒の負担軽減等を考慮した結果ではないか。</p>
自治協委員	<p>伝統芸能でいえば, 地域の4自治会と学校が協力して「石山節」を学び, 披露するイベントを行ったが, 親子で参加可能な行事だったのでとても盛況だった。地域との連携は子どもと地域がお互いに楽しくないと続かない。かかった経費に見合う成果は十分出ている。</p>
中地区公民館館長	<p>公民館で伝統芸能を振興している具体的な事業はないが, 伝統芸能のサークルもあるので, 活動の場や発表の場を提供する支援は行っている。</p>

自治協委員	公民館とコミュニティ協議会とがタイアップとして、笹団子づくりを行っている。毎年20組程度の親子が参加している。また、桜の時期にすごりのウォーキングイベントも行っており、今年度は230人ほどの参加があった。
自治協委員	公民館との関係でいえば、昨年度地域デビュー応援講座に参加した人から2人の民生委員が出た。 地域での事業の例としては、青少年育成協議会主催のオリンピックという運動会があり、今年度は1,000名を超える参加者がいた。皆さん楽しみにしている。
中地区公民館長	地域デビュー応援講座は、中地区公民館、石山地区公民館、東区地域課の行政側三者と地域コミュニティ協議会の協力で実施している。昨年の受講者27人は意識が高く、講座終了後、3分の2が地域コミュニティ協議会への紹介を了解してくれた。 その中、重責の民生委員に2人がなられたことは大きな成果と受け止めている。
自治協委員	地域教育コーディネーターをしているが、学校ボランティアの人数が多く、1日あたり最低10人程度が何かしらのお手伝いに入っていて、他からの支援が不要なくらいである。 公民館とは、距離が離れているために連携がとりにくいのが事実である。
自治協委員	ある祭りで神楽を舞っているのを見たが、ただ動いているだけで、昔に比べると技術的に劣っている感じがした。地域の催し物としてだけ続けていると衰えてくる。地域に丸投げするのではなく、公民館や教育委員会が、技術の内容や質の持続や向上を図っていくべきではないか。
中地区公民館長	旧石山地区、旧山の下地区は、それぞれ石山地区公民館と中地区公民館が近いが、区役所周辺の地域とは距離が離れている状態である。また、出張所もあるが、職員は常駐していない現状もある。遠慮なく声を掛けてもらえば出向いていく体制はできている。公民館としても、地域との距離感を埋めるべく、様々な事業を実施しているところである。 伝統芸能については主催事業として実施することは難しいが、伝統芸能を学ぶサークルに活動場所を提供するなど、側面支援は行っていきたい。
自治協委員	地域コミュニティ協議会と連携して作成した地域行事と学校行事を入れ込んだコミュニティ・カレンダーが大変好評である。特に地域の行事の日程調整に役立っている。ただ、学校教育という面から考えると、神社が中心となった神事の祭りへの協力を、どこまで学校に依頼できるか悩むところである。地域の特色ということで、学校側の理解をお願いしたい。
教育委員	公民館との距離感が問題ということなら、公民館出前型事業を取り入れてはどうか。公民館で行う事業を、学校を会場として行うもので、他の区で、妊婦さんや生後半年くらいの乳幼児に来てもらって夢や願いを語ってもらったり、実際に赤ちゃんに触れ合ったりする機会を設け、子どもたちに体験してもらおうといった、出前講座を利用した例があった。
教育委員	他の区の公民館事業の例で、「育て、ガキ大将」と題して、小学校高学年の子どもが低学年の子どもに様々なことを教えていく環境・雰囲気を醸成するものがあった。昔の子どもたちの関係を伝える場となって好評だった。
自治協委員	地域の祭りやラジオ体操の参加者、役員の人数などは増加傾向で、地域の事業としてはうまくいっている。

ふれあいスクールでは、多い時で 100 人を超える子どもが集まってきているが、スタッフが 7～8 人の時もあり苦慮している。運営主任もPTAの役員にお願いして手伝ってもらっているが、新たなスタッフが増えないのが悩みである。一昨年のアンケートでは、お年寄りと一緒に遊べてうれしいという声をたくさんいただき喜んでいるが、わたしたちとしては、まだ元気な60歳代の協力が欲しい。

自治協委員 8月にクリーン活動の周知のため、学校を通じて4年生以上にチラシを配布してもらったが、クラスごとで配布する際の説明に差があったようで、参加者数にばらつきがあった。もっと地域との関わりに子どもたちが関心を持つように、対応の統一・改善をしてもらえるとうれしい。

自治協委員 先ほどラジオ体操という話があったが、中心となるべき高学年の子どもがしっかり体操ができない状況を目にしている。学校で、4・5・6年生にはしっかりと指導いただき、地域で体操をするときのリーダーに育ててもらいたい。

教育委員会事務局 新たな方向として、現在は、学校全体が地域への貢献を大切にする方向で取り組んでいるので、地域の事業については、子どもたちに参加を促すよう学校へ依頼するとともに、方法なども一緒に話し合ってもらいたい。

ラジオ体操については、学校の授業としても行うが、地域の方からも一緒に参加してもらい、子どもたちに教えてもらえるとうれしい。

自治協委員 まちづくりセンターを核として、コミ協、公民館、学校が協力して事業を実施しているが、フェスタを開催した際、2つの小学校のうち、遠い小学校区の子どもの参加者数が伸びなかった。学校として、校区外に行ってはいけないといったような指導をしていたりするのかな。

教育委員会事務局 安全管理の面から、子どもたちだけで、保護者の許可なく他の小学校区へは行かないようになっている学校が多いと聞いている。

教育支援センター所長 この件については、東区教育支援センターから該当学校に情報提供をするので、安全が確保できる方法を話し合ってもらいたい。

より多くの子どもたちが、地域の伝統行事に触れられるように、学校と連携して、参加できるようにしてもらおうとうれしい。

自治協委員 皆さん素晴らしい取り組みをされている。子どもたちが育ったときに、地域にできることはないかと思える大人になっていたら、その時代の子どもたちはすごくいいと思う。

また、公民館での講座等が地域の力の底上げや気持ちの底上げに貢献しているのを感じるが、講座の時だけで終わらず、気持ちを継続・定着させていくことが重要。そのためには、うまくいった事例をにいがた共育通信のような紙媒体や市の広報番組なども使ってどんどん発信して欲しい。

教育委員会事務局 にいがた共育通信や区便り等で好事例を発信していますが、知る機会としてウェルカム参観日もあるので、ぜひ足を運んでもらいたい。

現在、公民館や学校を学びの場として、大人も学習し、その学んだことを子どもへと伝えていくというサイクルができるよう、循環型生涯学習の実現を目指しているので、好事例の発信を充実させていきたい。

教育委員会事務局 にいがた共育通信では成功事例を発信するなど内容の充実を図りたい。また、広報課と協力しながら、テレビを含めたメディアも加え、情報発信のチャンネルを増やしなが

ら、地域の活性化ができるようにしていきたい。

自治協委員 地域と学校の連携は密になってきていると思うし、地域教育コーディネーターの一生懸命な取り組みに嬉しく思っている。

外はいいのだが、内部での教育活動部分、学力向上や保護者の負担軽減、毎年の校費削減等で支障が出ている学校の話も聞いている。外も、内も頑張れというならば、市の財政事情は承知しているが、一律シーリングでなく、優遇するなど学校教育予算はしっかりと確保してほしい。

教育委員会事務局 教育費は、新潟市全体の予算の7.3%で、福祉や道路関係、土木、総務的な事業にかける予算に次ぐ大きなものである。学校等の建築や改築の建設事業の波はあるが、学校配当予算や地域に関わる必要な予算を確保する必要があることは認識しているので、予算確保の努力をしていく。

自治協委員 薬物乱用防止委員を務めて4期目になる。薬物乱用防止について、委員会では、新潟に医療機関がないことを危惧している。加えて、学校での指導の機会が少ないように思える。委員会でも側面支援をしていくので、もっと指導の機会を増やして欲しい。

教育委員会事務局 年1回は必ず指導を行っている。今までも薬剤師などの協力を得ていたが、薬物については年々種類や形態等変化がめまぐるしいため、教員のみではなく、今まで以上に薬剤師などの専門家に話をしてもらおうなど、いろいろな形で指導していきたい。

教育支援センター所長 地域の多くの目が薬物乱用の抑止力になる。イベントだけでなく、子どもたちの情報共有が十分できるような連携もお願いしたい。

自治協会長 具体的な事例に基づいて、予算面や学校の多忙化など説明していただくと分かりやすいと感じた。また、具体的な好事例がもっと知りたいという先ほど話も出ていたが、情報発信に力をいれてもらいたい。

議 事 5 東区担当教育委員挨拶(織田教育委員)

教育委員会だけでなく、お互いに役立つ情報を発言していただき、いい情報交換ができた。今後も頑張るといふ心強い意見や、アンケート結果が励みになっているといった本当に心温まる報告もいただいた。初めて他の区の情報等を聞いてなるほどと思った方も多と思う。区の教育ミーティングは、年2回なので、他の方法で地域の方に情報を発信できるようにしていきたいと考えている。

貴重なご意見の詰まった素晴らしい会議にさせていただいたことを感謝している。

6 閉会